

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	017200140		
法人名	すまいる株式会社		
事業所名	グループホームすまいる うれし館		
所在地	北海道恵庭市和光町4丁目8-1		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=0171200140-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日々家庭的な雰囲気の中、穏やかに過ごしていただいている。
 ・暖かい季節にはお庭でティータイムやバーベキュー、また外出やお散歩を通じ、季節を感じながら、日々を楽しんでいただけるよう努めている。
 ・看護職員を中心とし、医療面でも充実したケアを行えるよう努めている。
 ・安心しておまかせしていただけるようホームでの日常生活の様子を伝える『すまいるだより』を作成し、ご家族へお渡ししている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、閑静な住宅街にある2ユニットのホームである。洋館風、二階建ての建物で、緑豊かな広い庭にはバラのアーチや東屋が設置され、利用者の憩いの場、家族や地域の人の交流の場となっている。利用者は、町内会の花見や老人会に積極的に参加し、法人の「すまいる夏祭り」には多くの地域の人々の来訪があり、相互交流を深めている。また、花見やイチゴ狩り、紅葉狩りなどで季節の移り変わりを楽しみ、ドライブや水族館見学など多彩な外出行事に充実した生活を送っている。毎日の楽しみの食事は、利用者の好みも反映された献立に、旬の食材や菜園で育てた新鮮な野菜が取り入れられ、職員と一緒に和やかな雰囲気でも語り合いながら食卓を囲んでいる。健康、医療面では、看護師資格を有する数名の介護職員が常勤し、日常の健康管理、急変時の24時間連携体制をとって、本人、家族の安心・安全を支えている。管理者・職員は、理念に謳う「安全で 楽しく 穏やかに」の実践に努めて、今後更なる勉強会の充実、ケアの向上に取り組んでおり、地域にとってなくてはならない事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『安全で楽しく穏やかに』の基軸と七つの事業所理念に基づき、職員はその理念を踏まえてケアを実践する様、努めている。	利用者の尊厳と穏やかで楽しく満ち足りた生活を目指す「すまいる基本理念」を目につきやすい場所に掲示するとともに、毎朝唱和し、職員間で共有のもと、理念に沿ったケアの実践に努めている。	毎日の唱和で意識することにより理念に沿ったケアの実践が図られているが、さらなる向上を目指して、月間目標なり年間目標を設定、定期的に反省・評価し、次の目標へ向け取り組むことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しや、老人会への参加を通じ、地域との交流を続けている。	花見会、町内清掃などの町内会行事や老人会に利用者が毎回参加している。法人の「すまいる夏祭り」では、チラシ、町内回覧板、フリーペーパーで広く知らせ、たくさんの地域の人たちが参加し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会を持っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の運営推進会議では、報告とともに、参加の方々の意見をいただき、サービスの向上へ務めている。	会議には家族、地域の人、民生委員、市や包括支援センター職員、消防署などが出席し定期的に開催している。意見交換の中から、ボランティアや行事お手伝いの申し出など協力体制の深まりを見せている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などを通じ、現状や取り組みについて、お伝えしている。	運営推進会議に市や包括支援センター職員が参加している。また、市の会議には積極的に参加するとともに、グループホームネットワークの会での情報交換など、連携・協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員理解を踏まえたうえで、身体拘束をしないケアを心掛けているが、各フロア出入り口に関しては、利用者の安全を優先し場合によって施錠を行うこともある。	勉強会を通じ、虐待や身体拘束の禁止対象となる具体的行為について職員の理解を深めている。また、言葉による抑制についても、都度、職員同士注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度の外部研修参加の機会を逃したが、内部勉強会を通じ、虐待への理解を深め、職員全体で、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加を通じ、制度に対する理解を深めている。現時点では活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご家族への説明を行っている。改定などの際は文書での説明、不明な点は口頭で説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望は、来訪時や電話でお聞きしたり、運営推進会議で外部へ向けて発信する機会もある。それらを踏まえ、運営に反映すべく、努めている。	家族の来訪時には、関わり方や状況報告を行い、意識して要望や意見を伺うよう心掛けている。隔月発行のお便りには、豊富な写真とともに、個々の日常生活、医療情報を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に行い、職員全体の意見をくみ取り、改善すべく取り入れている。	職員が意見を述べやすい雰囲気の中で、活発な意見交換が行われている。また、法人として、意見の出ていない人の意向を汲み取るよう取り組んでおり、個人面談も行って、改善への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験、力量を把握し、各自が向上心を持って勤められるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験、力量を把握し、内外研修の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークの会を、他の同業者間との交流の場としている。また、ネットワーク主催の研修へも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で、ご本人の意見を伺い、安心して生活していただけるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で、ご家族の意見を伺い、安心してお任せいただけるよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要求を伺い、出来るだけ多くの情報を得たうえで、現状に合わせた支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の能力を理解し、生活に役割をもってもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限り、ご家族の協力も仰ぎ、協力しながら、ご本人を支えていける関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣であれば、できる限り行きたい場所へは連れていけるようにしている。馴染みの人に関しては、来ていただいた際には、ゆっくりしていただける環境作りを心掛けている。	馴染みの人の来訪時には、居室などでゆっくり寛げるよう配慮している。ドライブの途中で家族に会いに立ち寄ったり、獅子舞やお御籤を引けるよう神社に来訪してもらうなど、これまでの習慣が途絶えないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係把握を行い、円滑に生活していけるよう、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの連絡があった際には、相談、支援を引き続き行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思い、暮らしの希望、意向の把握を大切に、努めている。困難な場合は、普段の本人の状況や、生活歴を考慮し、本人本位に検討している。	日常会話の中から、個々の思いや暮らしの希望を汲み取るよう心掛けている。家族からの情報や、昔やっていたことを一緒にやることで引き出し、日常の生活の中に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、環境、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、心身状態、有する力の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望を十分に踏まえ、スタッフから得た情報も反映した計画を作成している。	モニタリングは毎月1回、計画作成者が職員の意見を取りまとめ作成し、毎月、全職員の参加するケア会議で検討している。介護計画は、毎日の介護記録、本人や家族の意向、医師の意見を入れ、6か月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し、職員間で情報の共有、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のニーズに対応して、既存のサービスのみに捉われない柔軟な対応ができるよう、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどの協力を得ながら、より楽しく生活していけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービスを開始してからも、それ以前からのかかりつけ医に継続してかかる事が多い。新規で受診が必要な際には、ご家族に状況説明し、同意を得たうえで受診となっている。	かかりつけ医の受診は、職員が通院介助することが多く、受診結果は家族に報告し共有している。看護師の有資格者が5名常勤しており、利用者の健康を支えるとともに、協力医療機関と24時間の連携体制が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員と連携を取り、適切な受診、看護を受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護職員が中心となり、医療機関との情報交換、相談を行っている。また、入院時などにスムーズな連携が取れるよう、関係作りもおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できていることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	サービス開始の段階で重度化した際のホームの方針の説明を行っている。	契約時に「重度化した場合の指針」に基づき説明し、同意を得ている。看取りについては、本人・家族が希望し、医療機関の連携・協力が得られる場合、協議のうえ、意向に沿えるよう終末期のケア体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命講習の参加や、急変時・事故発生時のマニュアルを用いて、必要に応じての対応を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、職員全体が避難時を想定した動きが取れるよう努めている。	消防署、地域住民参加のもと地震訓練、夜間想定を交え年2回、消防訓練を行っている。避難経路図の掲示、避難場所の共有、連絡網の整備、非常時備蓄を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した対応を心掛けている。	「プライドを尊重し、自分らしく尊厳をもって生活していただく」との理念のもと、基本接客用語を毎朝唱和し、声かけに気を配りながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をくみ取り、その意向を反映させるよう、ケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活のペースを優先し、その日その日を支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を尊重し、身だしなみやおしゃれをお手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を活かし、準備、片付けを行ってもらっている。食事を楽しめるよう、季節のものや、希望するものをメニューに取り入れることもある。	利用者の好みを把握し献立に反映させている。外食や庭でのバーベキュー、旬の食材や菜園で採れたての新鮮な野菜を取入れ、職員と一緒に食卓を囲み楽しい雰囲気となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の必要摂取量を判断し、それを確保できるよう、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の状態を把握し、介助が必要な方には適時口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレへの声かけや誘導を行っている。排泄の自立を目指すべく、支援を行っている。	トイレでの排泄を基本に、個々の排泄パターンを把握して声かけ誘導を行ない、おむつ使用を減らすように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を豊富に取り入れれたり、ヨーグルトやオリゴ糖を摂取するなど、食事の工夫をしているほか、必要に応じ下剤を調整し、排便のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯の自由はきかないながらも、本人の希望も取り入れ、入浴の支援を行っている。	週2回の入浴を基本としているが、希望にも柔軟に対応している。体調に沿った入浴法、安心安全のための職員2人介助、同性介助希望にも応じている。入浴剤使用やお話をしながらの介助など入浴が楽しめるよう工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるよう、湿度や温度などの生活環境を整えるなどの工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的や副作用、用法、用量について把握しながら、体調の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を考慮し、台所作業や季節での花植え、野菜収穫、ほか老人会参加、行事参加などを通じ、生活に張りあい持っていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の職員状況でままならない日もあるが、希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。遠方は希望をご家族に伝え、行っていたくこともある。	花見、イチゴ狩り、水族館見学、紅葉狩りなど季節季節の行事が企画され、また、個々の希望に応じた買い物、天気の良い日の散歩や庭の東屋でのお茶のみなど日常的に外気に触れる機会がもたれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルに繋がる事も多く、個々で金銭所持は行っていない。個別で買い物に行ったり、希望のものを職員が買ってくるなどして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙ともに希望に応じ対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は移動のしやすさ、過ごしやすさなどを考慮している。生活音や温度、湿度なども気にかけている。季節感を取り入れる為、装飾物や、植物を置いている。	共用スペースは床暖房、冷暖房機、加湿器などを設置し、快適な温湿度となるよう管理している。壁には、季節の飾り付け、利用者皆で制作した貼り絵作品、塗り絵、行事の写真、観葉植物を置き季節を感じられるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになれる場所はない。居間のフロアでは利用者同士、思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談し、使い慣れたものを持参してもらい、居室に置いている。過ごしやすい空間になるよう工夫をしている。	タンス、仏壇など馴染みの物を持ち込み、写真、人形、観葉植物で思い思いに飾り、生活感あふれた自分の部屋として居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが全体的に設置されて、歩行をスムーズにしている。居室、トイレなど見やすい場所に張り紙をし、ご本人で判断しやすいようにしている。		